授業科目名・形態	精神保健福祉援助演習Ⅱ　　演習	必修・選択の別	選択	単位数	1
科目担当者氏名	石岡和志　藤田博章	実務経験の有無	無	開講期	３年後期
科目ナンバリング	W5-3007p				

【授業の主題】

本講は、精神障害者の生活や生活上の困難について把握し、精神保健福祉士に求められる相談援助に係る知識と技術について、事例とロールプレイング等の個別指導と集団指導を通して、実践的に習得するとともに、他の科目との関連性も視野に入れつつ、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養することを目的とする。

【到達目標】

１．精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人のための諸制度、サービスについて、その概念と利用要件や手続きを知り、援助に活用できるようになる。

２．精神疾患や精神障害、精紳保健の課題のある人のための関係機関や職種の役割を理解し、本人を中心とした援助を展開するチームが連携する際のコーディネート役を担えるようになる。

【授業計画・内容】

第 1 回　オリエンテーション
第 2 回　支援課題別相談援助の理解①　：医療に結びつける援助
第 3 回　支援課題別相談援助の理解②　：地域移行支援
第 4 回　支援課題別相談援助の理解③　：地域生活支援
第 5 回　支援課題別相談援助の理解④　：医療観察法
第 6 回　支援課題別相談援助の理解⑤　：権利擁護
第 7 回　支援課題別相談援助の理解⑥　：就労支援
第 8 回　支援課題別相談援助の理解⑦　：貧困、低所得、ホームレス支援
第 9 回　支援課題別相談援助の理解⑧　：自殺対策、家族支援
第 10 回　支援課題別相談援助の理解⑨　：当事者活動（自助グループ、ピアサポート）
第 11 回　支援課題別相談援助の理解⑩　：ピアサポート
第 12 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解①：ストレングスモデル
第 13 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解②：精神科リハビリテーションモデル
第 14 回　実践モデルおよびアプローチ別の相談援助の理解③：危機介入（自殺など）
第 15 回　まとめ

【授業実施方法】

基本的には個人演習・グループ演習とし、面接・アウトリーチ・ケアマネジメント・チームアプローチなどの具体的技術を用いて、課題解決のための支援をすることができる実践力を養う。

【事前・事後学習】

毎回、テキストを中心に 30 分の予習を行い、わからない語句などは専門書や辞典などで調べておくこと。また、演習内容を踏まえた 30 分の復習を行うこと。

【主な関連する科目】

精神保健福祉援助実習指導、精神保健福祉援助実習、精神保健福祉制度論、精神科リハビリテーション論、精神保健の課題と支援Ⅰ・Ⅱなど

【教科書等】

最新・精神保健福祉士養成講座【専門科目】7　ソーシャルワーク演習（精神専門）中央法規 2021 年版

【参考文献】

授業中に必要に応じて紹介する。

【成績評価方法】

提出物（レポートなど）70%、グループワーク等への参加状況 30%で評価する。60%以上の得点で合格とする。

【学生へのメッセージ】

精神保健福祉士としての課題は精神障害者の生活問題に対応するために社会的復権と人権擁護の役割を担い、社会復帰を妨げているといわれる障壁を取り除き、地域社会の体制を整えることが挙げられる。利用者との「かかわり」を大事にする専門職の実践への準備ととらえて演習に臨むこと。